【佐久市】 1人1台端末の利活用に係る計画

項目	内容
①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	一人ひとりに個別最適化され、また、より協働的に創造性を育み資質・能力の伸長に資するICT教育環境を構築し、学習活動の一層の充実を図る。
②GIGA第1期の総括	すべての児童生徒、指導者等へ1人1台端末を整備するとともに、ネットワーク環境も一体的に整備し、授業等日常で一般的に使われるなど、ICTを活用した教育の浸透を図ることができた。 また、大型提示装置（電子黒板）を導入し、より協働的で探究的な学びの推進に向けて、市内外の小中学校間の連携や教員研修の充実を図り、質の高い教育環境を整えられた。
③1人1台端末の利活用方策	**【1人1台端末の活用】** ・児童生徒に対して1人1台端末を整備することにより、学習場面に応じて学習ツールとして使いこなし、自ら学びを深めていくために、児童生徒が主体的に学びを深めるためのデジタル学習コンテンツやプラットフォームを活用することにより、個別最適・協働的な学びを推進していく。 ・教職員に対しても、児童生徒と同じ端末を使用できる環境を整備し、利活用に対する研修や授業支援等を行うことで、1人1台端末を用いた指導力の向上を図る。 **【個別最適・協働的な学びの一体的な充実】** ・学習支援ソフトを活用した自由進度学習において、個々の成果や課題をフィードバックする機能等を用いることで、児童生徒の学習状況を教職員が把握し、孤立した学びを防ぎながら、協働的な学習の中で互いの課題解決を支援する授業実践を促進する。 **【学びの保障（臨時休業等の緊急時・不登校対策・特別支援教育・外国人児童生徒）】** ・クラウドサービスを活用し、オンラインで課題を共有することや、リアルタイムでオンライン授業を行うことで、不登校児童生徒のみならず、インフルエンザ等の感染症による学級閉鎖等の場合でも、自宅にいながら学校と変わらない学習環境を提供し、双方向性のある授業実践や個別の学習支援を行う。 ・不登校傾向の児童生徒が通う校外教育支援センターにおいても、オンラインを活用した相談体制を活用するなど、不登校児童生徒等が抱える様々な悩みに寄り添い、安心して学習に取り組める環境を提供する。 ・障害のある児童生徒に対しても、1人1台端末をはじめとしたICT機器を活用することにより、個々のニーズに合わせた学習環境を提供することで、学習効果を最大限に高めていく。